

ギコンくん
が
いく

特許庁庁舎の外壁のヒミツ



こんにちは、ギコンくんです。このコーナーでは、特許庁での気になるトピックを紹介しています。今回は、実は数多くの工夫が凝らされている外壁のお話をお届けします。

「こんにちは、コレじいさん！」

おや、ギコンくん。先ほど外でボカンと口を開けて何か見上げておったようじゃが、はてはて今日が金環日食の日じゃったかのう？

「あの、実は太陽ではなくて特許庁の外壁を眺めていました。改めて見てみると掃除をしている様子は見かけないのに、雨垂れの跡もなく綺麗だなあとお思いまして」

ふむ、そうじゃったのか。外壁は表面がデコボコした暗い色の天然石じゃから、そもそも汚れが目立ちにくいじゃよ。

「へーっ、あれは天然の石だったのですか。どうりで面白い深い趣があるのですね」

じゃが、汚れにくい理由は無論それだけではないじゃ。

「パテッ！何か秘密があるのですか？」

ほっほっほ。この建物は窓が外壁より奥まっておるじゃろう？ その奥まっている部分は窓ガラス側に向かって傾斜しており、雨が外壁側に流れないようにしておるのじゃ。

「なるほど！だから外側に雨垂れの跡が付きにくいのですね」

そうなのじゃ。掃除の必要も減るので、建物のメンテナンス費用を抑える効果もあるのじゃよ。しかも、窓ガラス側に流れてきた雨水は地下の貯水槽に送られ、中水としてトイレの洗浄水や植栽の水やりに再利用されておるのじゃ。

「ま、まさか、トイレの手洗いの水も…」

安心せい、それは流石に水道水じゃよ。他にも外壁の見た目に関しては隠れた工夫があるのじゃが、聞きたいかのう？

「ぜひ教えてください！」

相変わらず元気だけは良いのう。さっきも言ったとおり外壁は天然石じゃから、一枚一枚全て模様が異なるのじゃ。それらをどんな順で壁面に並べれば美しく見えるかについても、建設当時に真剣に検討されたのじゃ。

「パテッ！ そんなの適当に並べるだけじゃダメなのですか？」

それが不思議なもので。人が並べてゆくとどこか作為的で不自然な部分が生じてしまい、美しく仕上がらないそうじゃ。そのため、何通りも並べ方を検討した結果、乱数を使って全ての石を無作為に並べる方法に決めたそうじゃ。

「そんな隠れた努力があったなんて…」

細部まで妥協しないという誇りのなせるワザじゃ。外壁を地面に並べて、高いところから見て実際に確認までしたらしいからのう。

「へーっ。外壁にもいろいろ工夫がされているのですね！」

この庁舎の建設に携わった方は、建設当時、官庁の外壁に石を用いた例は他になかったと胸を張っておったのう。その分苦労もあったようじゃが、外壁に石を使う官庁が徐々に増えてきたことからして、やはり先駆的な建物なのじゃろう。…おや？何かモジモジしておるが、どうしたのじゃ？

「話を聞いていたら、もう一度外壁を眺めたくなってきました。ちょっと行ってきます！」

気の早いやつじゃのう。眺めすぎて目を回さぬように気を付けるのじゃよ。

「パテッ！ そんな愚は犯しません！」

ほっほっほ。直に梅雨も来る。じめじめしたときは外壁のことで思い出してみると、気がほぐれるかも知れんものう。

(文：特技懇編集委員会)

